

(様式1)

学校番号 (小)・中 27)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立 (与進小) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

・学校運営協議会の設置目的や協議すべき事項について確認をし、学校運営の基本方針や目指す子供の姿、学校の課題などから、その実現や解決に向けた取組についての話し合いを行う。
・学校が必要とする支援を確認し、学校・家庭・地域のそれぞれが実行すべき内容、役割分担が明確となるような熟議を行う。地域とのつながりを増やせるような支援内容を熟議し、学校と地域との関わりを増やしていく。そして、地域の教育力を向上させ、地域で子供を育てていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

校長より示された学校運営の方針や教育目標について詳細な説明があり、理解を深めることができた。しかし、協議会が学校側からの報告を受ける場に留まってしまう傾向があり、地域でどのような子供を育てるかという具体的なアプローチや姿勢についての共有が不十分である。今後も引き続き、学校側の提示に対して委員から新たな活動案や改善策を積極的に提案し、より双方向で深い熟議ができるようにしていく必要がある。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

習字やミシンなどの学習支援が有意義に行われたほか、教職員と直接対話した「自己肯定感向上」についての協議では、学校・保護者・地域の立場で支援できることについて議論できた。今後も、学校が必要とする支援の内容と役割分担をより具体的に整理し、ネットワークのさらなる拡大を図っていく。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

「CSだより」の発行やホームページへの掲載に加え、自治会長への個別協力依頼により、地域への周知とボランティア参加の輪が広がっている。しかし、回覧板や紙面媒体だけでは情報を十分に届けられていないところがあり、協議会の活動内容が地域全体に自分事として浸透しているとは言えない。今後は、地域住民が学校に関心をもつための方策を具体化して、効果的に情報が発信できるようにする必要がある。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

・学校運営の方針を十分に理解し、学校・家庭・地域がそれぞれ実行すべき役割分担を明確にした上で、課題解決に向けた実効性のある熟議を行う。目標の明確化
・子供たちの主体性を引き出し、教育目標を達成するための具体的な支援策や環境づくりを協議する。長上カルタの活用、発表の場の設定、学習意欲
・これまでの活動を継続・進化させるとともに、自治会やPTA、民生委員、さらには地域の事業所などにも協力を呼びかけ、地域全体で子供を育てる体制を強化します。地域の資源活用、地域イベントで子供スタッフ
・学校との関わりを持つ人を一人でも増やし、その人たちを核として地域を巻き込むことで、情報発信の質を高め、地域住民の関心を高める環境を作る。